

「訪看タブレット」導入により 職員負担の軽減を実現！

平成30年4月に開業された「訪問看護ステーションもみの木」。
東京都日野市を中心に日々利用者様の健康に寄り添っています。
同事業所では「カイポケ訪問看護」の活用により業務効率化を
実現し、利用者様へのケアの充実・職員様の負担軽減を実現さ
れております。

今回は代表社員兼看護師の渡邊様にお話を伺いました。



独立したら必ずICTを導入しようと
思っていました。

Q カイポケを導入しようと思ったきっかけをお
教えていただけますでしょうか？

A 渡邊様：前職でも訪問看護ステーションで働いていま
しが、そこは紙帳票を活用していました。記録した看護記
録はステーションに戻ってからPCで打ち込み、データを本社
に送るという工程でした。それだけでも毎日2時間近くかか
り、残業も常態化していました。当時もICTの導入について
は提案していましたが、経営者側の判断で最後まで導入され
ませんでした。そのころから「自分が独立したら絶対に導入
しよう」と思っていました。

実際に独立しどのソフトを導入しようかと考えていた時
に、前職の時に来ていたカイポケの営業の人の名刺があるの
を思い出しすぐに連絡を取りました。

レセプト機能と同時にタブレットの導入も行うことにな
り、カイポケのICTセミナーに参加。内容を事業所に持ち帰
り、職員みんなでタブレットの操作に取り組み始めました。

訪問看護タブレットセミナー

カイポケでは、訪問看護事業所を運営されている会員様向け
に、タブレットを用いて記録業務の効率化を体感していただ
ける「訪問看護タブレット入門セミナー」を開催。



訪問看護ステーションもみの木

平成30年4月に東京都日野市にて開業。「がん看護」に強みがあ
り、スタッフへの教育は週1回の個別研修・月1回の全体研修で
手厚く行われている。

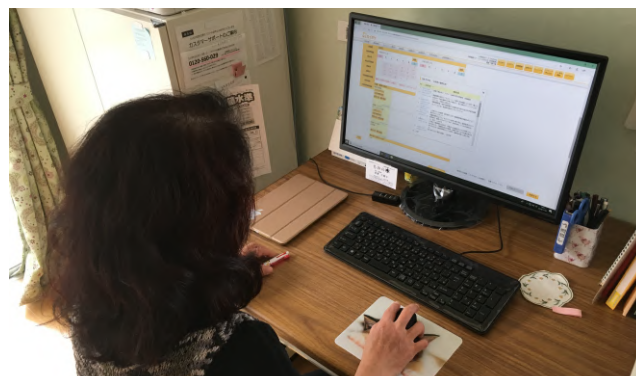


困った時もコールセンター対応で
安心です。

Q カイポケを導入されるにあたり、苦労された
点などはございますでしょうか？

A 渡邊様：これと言って苦労した点はありませんでし
た。導入当初は利用者様の数も少なく、まずはタブレットを
1台導入し、当時常勤の職員3名で共有して使用していまし
た。

全員がタブレットでの看護記録作成は初めてでしたが、
感覚的に使用できる部分に分かりやすく、3人で教えあひな
がら使うなかで操作を覚えることができました。わからない
部分もコールセンターに電話をするとその場で教えてくれる
ので安心して使うことができています。また、スタッフには
看護記録の作成に専念して覚えてもらうようにしました。そ
れ以外の機能（訪問スケジュールの作成・実績確認・請求作
成など）に関してはすべて私と非常勤の事務員とで操作を覚
え、活用しています。



帳票作成を行う渡邊様

そうすることによって現場スタッフもそれほど気負うことなく取り組んでくれて、比較的時間もかからずに操作を覚えることができたと思います。

現在では常勤職員に1台ずつタブレットを支給し、非常勤スタッフに関しては1台を共有してもらい活用しています。



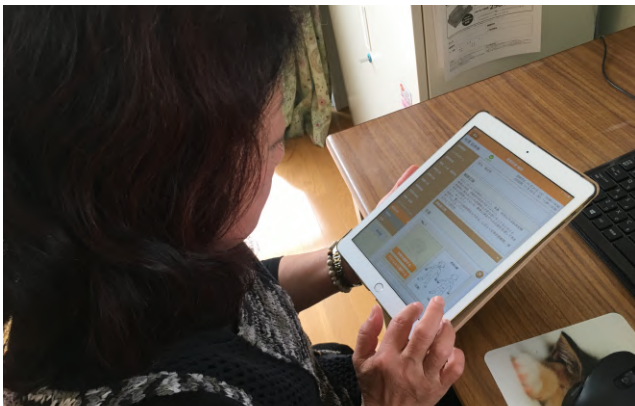
看護記録は移動の合間に。
残業もほとんどありません。

Q カイクケを活用してみて、どのような効果を実感できましたか？

A 渡邊様：実際に現場で使用する際も訪問の合間の空き時間に車の中で記録作成を済ませてしまえるので、前職の時にあったステーションに戻ってから記録を完成させるという作業がなくなり、残業がほとんどなく運営できています。もともと「仕事は業務時間内に終わらせる」ということを目指してきたので、本当に良かったと思っています。

スタッフにもそれほど負担をかけることなく、頑張ってくれているのではないかと思います。請求に関しては、実績確認を日次で行うことによって月末の最終チェックの際に慌てることなく、結果ミスが少なくなっているのではと思います。日次の確認作業もさほど時間がかからないので、業務時間内にすべて終わらせることができています。導入当初は返戻が多くならないか心配していましたが、結果的に返戻もなく請求でき安心しました。現在は私が確認した実績を非常勤の事務員に適宜ダブルチェックしてもらうことでミスがないような運営ができています。

また、医師からの指示書や服薬情報などの紙の帳票はアルバム機能を活用することでいつでも必要な情報を確認することができるようになりましたし、前職の時は訪問時の荷物も多くなっていましたがそれもなくなったので身体的な負担も減ったように思います。



タブレットでスタッフの看護記録を確認。

訪問看護の業務記録は訪看タブレットにおまかせ

訪問時はタブレット1台でOK。実績と連動し、月末の請求業務も確認だけ。最大で月間200時間業務削減された事業所様も！



目の前のケアをしっかりと行い、
地域のニーズに応えたい。

Q 今後の抱負や展望をお教えいただけますでしょうか。

A スタッフ：開設してまだ間もないので、今のところは事業所数を増やすことは考えていません。まずは目の前の利用者様に対するケアをしっかりと丁寧に行い、地域の中で頼りになるステーションとしての立ち位置を確立したいですね。

特に当ステーションでは私をはじめとしてがん看護に強みを持っている看護師が複数名在籍していますので、地域にお住いのがん患者の方に対して寄り添った看護の提供ができるかと思っています。

日野市エリアにはお困りの方がまだまだ多くいらっしゃいますので、1人でも多くの利用者様のニーズにお応えしていきたいと思っています。



編集後記

前職での経験から強い意志をもってICT導入に踏み切られた代表社員の渡邊様。ICT導入により以下の点において効果が見られたとのことです。

特に①に関しては職員の業務負担の軽減だけではなく、職員の長期定着という観点においても必要不可欠な要素なのではないかと感じます。

- ①全職員の業務負担の軽減
- ②請求業務のミス削減
- ③事業所のペーパーレス化

